

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立竜王中学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部分」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語の正答率は、全国平均よりやや低いです。特に、「話すこと・聞くこと」領域の、「発言について説明したものとして、適切なものを選択する」という問題と、「書くこと」領域の「書いた文章について、交流を基にして『この文章の良い点や改善点』と『今後随筆を書くときに生かしたいこと』を書く」という問題の正答率が顕著に低かったです。多くの材料の中から伝えることを整理すること、相手の考えを踏まえ、自分の考えを書くこと等の力を付けていく必要があります。
- ・数学の正答率は、全国平均・県平均ともに若干下回っていますが、平均正答数でみると1問以内の差です。問題別に見ると、「求め方を説明する」等の記述式の問題のほとんどで無回答率が、全国、県平均よりも高く、正答率も大きく下回っています。題意を正しく理解すること、何を説明したいのかを明確にすることに課題があります。また、「確率を求める」や「箱ひげ図の読み取り」などの身につけるべき数学的知識についての問題の正答率は全国平均を大きく下回っており、定期的に復習をしていく必要があります。
- ・英語の正答率は、聴くことの正答率は全国平均を上回っていますが、読む・書くことの正答率が下回っています。事実や自分の考え、気持ちなどを整理して表現する等、普段の授業で生徒が苦手とする言語活動の正答率の低さが目立ちます。社会的な話題について聴く・読む、また、話題と生徒自身とを結べるような発問をする中で、自分の考えとその理由をまとめて話す・書く表現をする活動を頻繁に取り入れて表現力を高めていく必要があります。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向がみとめられる項目
「人が困っているときは、進んで助けていますか」「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」等、仲間や学校での生活についての項目が高い数値を示しています。
- ・課題となる項目
「学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」「学校の授業時間以外に普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」等、学習に係わる項目について低い数値を示しています。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・ICT機器を利用し、生徒が主体的に学習する場面をより多く設定して、自ら学び・探究する授業を目指して授業改善を進めていきます。また、家庭学習においてもICT機器を効果的に利用できるよう、家庭への持ち帰りを推奨し、課題を設定していきます。
- ・各教科、総合的な学習の時間、特別の教科道徳を含めて、「言語活動」を意識した活動をより積極的に取り入れ、特に「自分の考えをまとめる」力や、「自分の考えを発表する」力を育成し、自らの生活を高めていく活動を進められるように計画していきます。
- ・生徒が「安心・安全」に通うことができる学校を実現するために、「いじめ」の早期発見・根絶に取り組み、生徒とともに協力して学校づくりを目指します。
- ・健康や食に関する指導を行い、生徒が元気に学校に登校できるよう、引き続き健康づくりを推進していきます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・家庭学習の時間を確保するため、学習する環境作り（ICT機器の利用も含む）にご協力ください。
- ・スマートフォンやゲームの利用（ネットモラルを含む）について家族で話し合い、ルールを確認してください。また、学習以外の場面での利用を控える期間（アウトメディア、定期テスト期間等）も考えるようにしてください。
- ・1日の出来事などについて、学習・学校の様子・良かったこと・困ったこと等、家族で話す時間を週に一度は作ってください。
- ・家庭で新聞・読書等、活字に触れる機会を作ってください。